

第2回持続可能な世界・北海道 高校生ポスターコンテスト

公募要項

2019年1月に行いました「第1回持続可能な世界・北海道 高校生ポスターコンテスト」**別紙1: 第1回報告**に引き続き、「第2回持続可能な世界・北海道 高校生ポスターコンテスト」は、**授業や課外活動で高校生が行っている取り組みについて**、①持続可能な開発目標(SDGs)に関わる様々な視点からの優れたポスターの表彰、および、②先生や高校生が交流する場の提供、をいたします。

- 募集部門**
- ・ 一般部門 まちづくり・福祉・開発教育等
 - ・ 国際部門 フェアトレード・国際理解等
 - ・ 環境部門 自然環境・環境保全等

募集対象 北海道内に居住する高等学校の生徒等^(注)

募集作品 ポスター1,2枚 (詳細は **別紙2: 募集作品について** をご覧下さい)

応募先 短絡 URL <http://bit.ly/36ucasr>

(Google フォームに接続します。作品の pdf 等をアップロード)

応募〆切 12月20日(金) (〆切を延長する場合があります。最新の公募要領をご確認下さい)

発表・交流会

互いの交流が進み、学び合えるようになるべく多くの人に参加してもらいたいと思っています
(入賞グループに札幌までの旅費を助成いたします)。インターネットで参加する仕組みも用意します。

- ・ 2020年1月25日(土) 午後(予定:午後1~4時)
- ・ 北海道大学大学院地球環境科学研究院 D101
- ・ 優秀賞・各賞の表彰、ポスターセッション

Web 作品展覧会 応募者に URL を連絡致します。

主催 持続可能な世界・北海道高校生ポスターコンテスト実行委員会

共催 RCE 北海道道央圏協議会

札幌-道央圏 ESD-SDGs コンソーシアム(北海道大学大学院環境科学院)

後援 コープさっぽろ

問い合わせ 持続可能な世界・北海道高校生ポスターコンテスト実行委員会

〒060-0810 札幌市北区北十条西5丁目 北海道大学大学院地球環境科学研究院山中研究室

電子メール: SDGs@ees.hokudai.ac.jp 電話: 011-706-2363(山中研究室)

注: 高等学校に限らず、**高校生等が主催する団体**からも応募可能です。その際、団体の説明をした資料をポスターと一緒に送ってください。中高一貫校や**中等教育学校**や**高等専門学校**では、高校1年生~3年生に相当する学年の生徒さんが対象です。また、定時制などの生徒に対する年齢制限等は設けません。

別紙2：募集作品について

科学クラブ等の部活動における探究の成果、あるいは、高校生が主催する団体の活動成果、総合的な学習/探究の時間で行ったことなどを送って下さい。今年(2019年1月～12月)に作成した既存のポスター等も応募可能です(他のコンテスト等で重複応募が禁止されていないか等にご留意下さい)。

募集部門として、(1)一般部門(まちづくり・福祉・開発教育等)、(2)国際部門(フェアトレード・国際理解等)、(3)環境部門(自然環境・環境保全等)があります。部門毎に審査して優秀な作品を選びます。なお、教育・行政・メディア・企業・民間団体・大学生など、様々なステークホルダーの人々が複数部門について審査します。

【0】応募資格：

北海道内に居住する高等学校の生徒“等”。SDGs では多様な人々が共生する社会の実現を目指しています。そのため、いわゆる高校生を広く捉えた応募資格にしたいと思います。対象となるかご不明な場合はご相談ください。

【1】内容(審査部門)

希望する部門に加えて、実行委員会でより相応しいと考えた部門で審査することもあります。

一般部門：主に持続可能な開発目標 SDGs の視点から、地域や身近にある社会問題について、調査研究や実践・理解したこと。

国際部門：主に持続可能な開発目標 SDGs の視点から、国際関係に関することについて、調査研究や実践・理解したこと。

環境部門：地域や身近にある環境問題について、個人やグループが調査研究や観察・考察したこと。

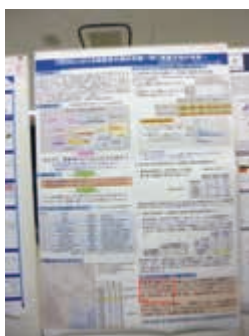
【2】テーマ(題名)：作品の内容を表すような適切な長さのテーマをつけて下さい。30文字以上については一覧表等で略して記載する場合があります。

【3】応募作品の形式、および、添付資料

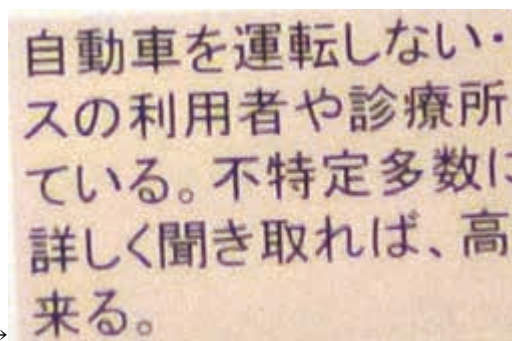
応募作品はポスター1枚もしくは2枚です。審査員への説明資料として、**説明資料 A4 サイズ 1枚**(授業や活動の説明やポスターの内容等を記述したもの)も添付可能です。いずれも高校生が作成したものが審査対象となります。

- ① **ポスターをpdfにしたものをお送り下さい。**サイズは問いませんが、発表・交流会では、模造紙(788mm×1091mm)サイズに印刷いたしますので、その際に十分に鮮明になるようにご留意下さい。
- ② **手書きでの作成や既存のポスターの場合には、ポスター毎に、全体が鮮明に分かるような画像をjpgファイルとしてお送り下さい。**模造紙(788mm×1091mm)サイズで作成して下さい(既存のものは模造紙サイズに準じます)。

jpg ファイルの例: この画像は、3456×4608ピクセルのサイズ 6MB です(左側)。その赤枠の部分を100%で見ると、右側のように文字がしっかりと読めます。判別が難しい場合には、より良い画像を送ってもらえるように、御願ひすることがあります。



→拡大→



- 左: ポスター全体を撮った写真(説明に使用するため、一部モザイク処理をしています)
 右: 左の赤枠を原寸大で拡大したところ。この程度に読めるような写真を撮って下さい。

- ③ 演劇・演奏などを含む場合には、動画にして YouTube 等を利用し、ポスター内に YouTube 等の URL を明記して下さい。表彰・ポスター公开发表会で、演劇・演奏などを行うかどうかは別途相談させていただきます。
- ポスター(および説明資料)には、「テーマ、学校名等、氏名(ふりがな)」を明記して下さい。
 - ポスターは pdf または jpg で、説明文は pdf でメールに添付してお送り下さい。添付ファイル全体で 10MB を上限とします。ご不明な点は、SDGs@ees.hokudai.ac.jp にお問い合わせ下さい。

【4】応募作品数の上限

審査員の負担に配慮し、1つの高校/団体から原則 4 作品を上限とします。

【5】応募作品の取り扱い

応募時の情報や送付したファイルについては、**応募者の許可無く、本コンテストの報告・宣伝等に利用させていただきます(学校名を出し、個人名は出しません)**。なお、一般公開に差し支えがあるような内容を含めることは避けて下さい(例: インタビューした相手の実名、これから学術論文等に投稿するようなデータ等)。なお、一般公開する際に、差し支えある内容を含む場合には、備考等に記入してご相談下さい。

【6】応募時の入力情報 その1 および作品(・説明資料)を添付したメールの送付 その2

その1 Google フォーム(短絡 URL <http://bit.ly/36ucasr>)から応募情報を入力して下さい。

なお、セキュリティの関係で短絡 URL を使用できない場合は、直接 Google フォーム

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeVpMKjff9KU97p_vJQvcBBs-PKG1u1YHc_GvqUyXdKqirqlg/viewform

に、直接接続してご利用下さい(実行委員会の労力省力化にご協力をお願い致します)。Google フォームに入力できない場合等は、電子メール SDGs@ees.hokudai.ac.jp にポスターを送る際に、下の情報を付け加えて下さい。

Google フォームへの入力項目は、次の通りです。

- **募集部門:** 一般部門・国際部門・環境部門のいずれか
- **高校名等:** 高校名(もしくは、高校以外の団体は団体名)を入力して下さい。
- **応募者の氏名(学年等):** 応募が複数居る場合は、全員の名前(学年等)を入力して下さい。グループの場合は、グループ名と代表者の名前を入力して下さい。
例: 阿伊植夫(高2)・北海太郎(高1) 国際交流グループあてな(代表: 札幌二郎(高3))
- **テーマ(題名)**
- **連絡先(担当の先生等):** こちらから連絡が出来る担当の先生(高校以外の団体はそれに代わる方)について、電子メール(ファイルをやりとりできるようなアドレス)、氏名、立場(例: 総合学習の担当教員、部活顧問の先生等)、住所(賞状等が郵送できるところ)、電話番号、を入力して下さい。
- **メールに添付するメディア**
ポスター作品(pdfもしくはjpg)が1枚か2枚か、説明文章(pdf)があるかないか
- **発表・交流会への参加:** 遠隔地から札幌への旅費の補助いたします(第1回の手続きより簡素化いたします)。
- **お問い合わせ等:** 入力の際に、上記の項目について迷ったこと等

その2 **ポスターの送付:** 作品は pdf か画像ファイル(jpg)、説明文は pdf で、メールに添付して送って下さい。

- **作品のファイル名は、【高校名等】テーマ名.pdf、もしくは、【高校名等】テーマ名.jpg** として下さい(なお、高校名等やテーマ名は、見分けられる程度に省略して構いません)。jpg では、1 枚目、2 枚目に 1, 2 と番号を付けて下さい(例: 【北大高】オオバナノエンレイソウ生育 1.jpg)。説明文のファイル名は、**【高校名等】テーマ名_説明.pdf** としてください。
- **メールの件名は、ファイル名と同じ【高校名等】テーマ名**として下さい。一つの高校で複数件応募する場合でも、**作品毎にメール**を分けて送って下さい。
- **メールの宛先は、SDGs@ees.hokudai.ac.jp** です。
- **高校以外の団体は、ポスターと共に、団体を説明した pdf ファイルも添付してお送り下さい。**



【7】審査観点(第1回を踏襲します)

様々な立場の審査員が、次のような観点から一つの作品に対して3名以上で採点致します。

(A) 説明・議論していることや実践していることの科学性や客観性

- 誰しも納得するような、丁寧な論理的説明となっているか？
- 論拠として、出典を明記しているか、もしくは、実験データ等を示しているか？

(B) 研究の科学的位置づけや実践の社会的意義

- 研究や実践の背景や対象とする社会課題について説明されているか？
- 実践・理解や観察・考察が科学的位置づけや社会的意義に答えるものになっているか？

(C) デザイン(読者に伝わる工夫等)

- 論理整然とした構成になっているか？
- 文字や文章、写真・図表などの配置や大きさ等がバランス良いものになっているか？

(A), (B), (C)の項目毎に、5: 観点を満たすことを上回っていることに加えて独創性がある、4: 観点を満たすことを上回っている、3: 観点を満たしている、2: 観点をほぼ満たしている、1: やや観点を満たしていない、0: 観点を満たしていない、と評価します。各5点で、15点満点の得点とします。採点結果を参考にして、審査員が合議して入賞を決めます。入賞決定後、**全応募作品に対して**、審査員および実行委員会のコメントをお送り致します。

【8】入賞および表彰

部門毎に最優秀賞1件および優秀賞数件程度、また、特別賞を選考する予定です。賞状と副賞(図書カード3,000円程度)を授与致します。特別賞は、上記の採点結果とともに各賞の「大切にしたい想い」を加味して選考する予定です。

第1回の特別賞の例(第2回では、新設・廃止・変更するものがあります):

- **実践環境科学賞**:「こんなの無理」と思っていたのに、提案した現場の人々が「いいね!」ってくれたこと
- **環境学習フォーラム賞**:自然を見て不思議だな、どうしてだろうから出発して、サイエンスで理解することはとても重要ということが分かること
- **働くことを問う賞**:持続可能な世界・札幌を作るためには、何よりも日々働くことが豊かな人生の基盤となる。そのようなことに気がつき、考えてくれたこと
- **フィジー共和国名誉領事賞**:国際交流について、高校生のみなさんならではの考え、何を得たかを丁寧に説明してくれること
- **星をつかむで賞**:持続可能な北海道に向けて、キラキラした活動をしてくれたこと

【9】発表・交流会

2020年1月25日(土) 13:00-16:00を予定しています。札幌から遠隔地の入賞者には、コープさっぽろ等や個人の寄付を利用して、札幌往復の旅費を助成いたします。当日参加できない受賞者には発表の動画作成、YouTubeライブやskype, messenger等のチャット等で、インターネットで参加する仕組みを整えます。応募者には、メール等で詳細をお知らせいたします。

【10】本公募要領の更新

今回の公募要領(2019年11月5日版)と齟齬が無いようにいたしますが、特別賞の更新や、手続き上の詳細に関する軽微な修正をする場合があります。**適宜、最新版をダウンロードして下さるようお願い致します。変更箇所については、青字**で分かりやすくいたします。

別紙1：第1回持続可能な世界・北海道高校生ポスターコンテストの報告

環境学習フォーラム北海道(昨年解散)により20年間開催されていた『高校生環境学習ポスターセッション』を参考にして、これまでの内容を環境部門として、一般部門(まちづくり・福祉・開発教育等)・国際部門(フェアトレード・国際理解等)を加えて、12月24日(1月8日(延長)で実施し、20作品の応募がありました。小中高の教員、大学生・大学院生、企業、行政など多様な視点から審査するため、23名が担当して、部門毎に最優秀賞1作品、優秀賞数作品、および、部門横断の形で、特別賞5作品(優秀賞との重複受賞を含む)を選出しました(下表)。審査委員には、長年取り組んでいる自然科学系の部活動の成果や総合的な学習の時間を利用したSDGsに関する主張などの多様な作品について、実行委員会が議論して定めた審査の観点のもとで、比較しながら審査できる機会となりました。「他校の取り組みを詳しく知り、本校の取り組みにも活かしていきたい」という声があったように、審査委員にとっても「学び」がありました。



2019年1月26日に実施した発表・交流会の様子

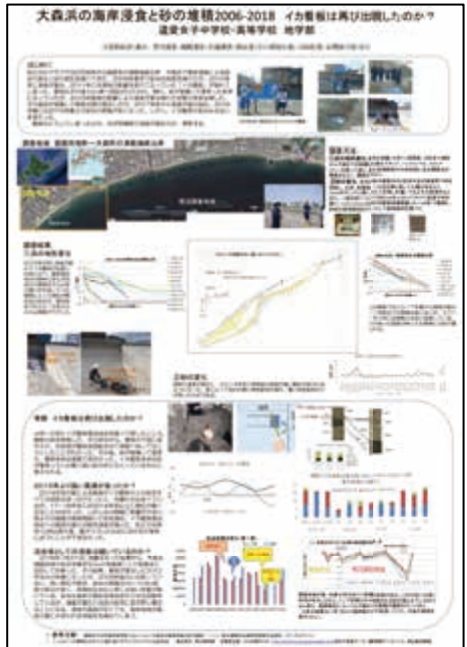
発表・交流会を2019年1月26日に実施し、応募した高校生、審査委員を含めて、27人が参加しました。なお、旅費を支給することで、片道4時間程度かかる遠隔地からの参加が可能となりました。当日は、発表会として最優秀作品を紹介したあと、交流会としてポスターを相互に説明し議論する時間をとり、「持続可能な世界って？探究のために必要なこと」というタイトルのもとでのワークショップを、高校生と引率教員・審査員に分かれて実施しました。部門毎に、何を伝えるかという視点から、内容だけでなく、ポスターのデザインも大きく異なり、非常に多様な高校生や引率教員が交流する場として、お互いを理解するなど有意義な時間となりました。なお、教育的観点から、全応募作品について審査委員のコメントおよび実行委員長がまとめた説明を参加者全員に配布しました。

| 一般部門 | タイトル | 所属 |
|--------------|---|-----------------|
| 最優秀賞 | ドキドキ・わくわくSDGs啓発 | 札幌聖心女子学院高等学校 |
| 優秀賞 | 身近な外来生物について考える～with アメリカザリガニ～ | 札幌聖心女子学院高等学校 |
| 優秀賞 | 始める、ヘアドネーション | 札幌聖心女子学院高等学校 |
| 優秀賞 | 百花蜜の秘密II ～ハニーオブザイヤーに選ばれた理由～ | 市立札幌大通高等学校 |
| 国際部門 | | |
| 最優秀賞 | あなたは2030年の世界で「幸せ」ですか？ | 市立札幌大通高等学校 |
| 優秀賞 | レモネードでハイチ大地震からの復興 | 札幌聖心女子学院高等学校 |
| 優秀賞 | アフリカの貧困はなぜ無くならないのか | 北海道札幌啓成高等学校 |
| 優秀賞 | 都市の在り方ー国際的かつ地域・社会・環境的な都市へー | 北海道札幌啓成高等学校 |
| 環境部門 | | |
| 最優秀賞 | 大森浜の海岸浸食と砂の堆積2006-2018ーイカ看板は再び出現したのかー | 遺愛女子中学校・高等学校地学部 |
| 優秀賞 | 土幌の原植生 カシワ林を後世に伝えるために | 北海道士幌高等学校 |
| 優秀賞 | ヒメザゼンソウ(<i>Symplocarpus nipponicus</i>)の開花傾向と越冬戦略 | 北海道札幌啓成高等学校 |
| 優秀賞 | マコンブの活動状態および海洋環境測定装置の開発 | 北海道函館水産高等学校 |
| 優秀賞 | 五稜郭公園堀池におけるミドリガメの生息数とニホンインガメの繁殖の試み | 北海道函館水産高等学校 |
| 特別賞 | | |
| 実践環境科学賞 | 始める、ヘアドネーション | 【重複受賞】 |
| 環境学習フォーラム賞 | ヒメザゼンソウ(<i>Symplocarpus nipponicus</i>)の開花傾向と越冬戦略 | 【重複受賞】 |
| 働くことを問う賞 | マコンブの活動状態および海洋環境測定装置の開発 | 【重複受賞】 |
| フィジー共和国名誉領事賞 | Localizing SDGs | 北海道札幌国際情報高等学校 |
| 星をつかむで賞 | レモネードでハイチ大地震からの復興 | 【重複受賞】 |

「第1回ポスターコンテスト受賞作品および実行委員会からのコメント」の例

【一般部門最優秀賞】札幌聖心女子学院高校(左・中) SDGs の普及啓発に対する優れた行動力だと思います。担当した全審査委員が第一位を付けた作品です。重複受賞を許すことにしたら、どれかの特別賞も受賞したのだらうと思います。(実行委員長という立場ではありませんが)その一方、全体を通じて、みなさんは何を得たか、何を課題か、主役としてのみなさんについて語って欲しかったです。そこが(私にとって)優等生ぶく見えてしまう原因と思えました。大学教授として「知識は力なり」と思っています。大学で知識かつ人脈を作って、情熱を持ち続けて、世界を Transforming して下さい。

【環境部門最優秀賞】遺愛女子高校(右) 数多くの審査委員から注目されて、最優秀賞となりました。点数的には他の作品と競っていましたが、興味を引くテーマで作品に仕上げたことが評価されました。発表を楽しみにしています



【国際部門最優秀賞】市立札幌大通高校(左・中) 多くの審査委員・実行委員に訴えた、インパクトがある作品でした。デザインという意味では、ポスターの既存概念とは異なるので、賛否両論でした。なお、「ロールプレイングをしてみましょう」と読者に問いかける③については、評価がとても高いものでした。ハラルの「サピエンス全史」に影響を受けつつ、自分として「幸せ」を考えてみた作品は、素晴らしかったです。大学で知識かつ人脈を作って、情熱を持って、世界を Transforming して下さい。

【環境部門優秀賞/働くことを問う賞】函館水産高校(右) 水産高校らしいテーマであり、産業に直結する技術を習得しているという姿が評価されました。実行委員長の立場ではありませんが、努力するプロセスはよく分かりましたが、(読者に追体験をさせるのではなく)読者に何を伝えると良いかの整理が必要だと思えました。この特別賞は、みなさんが働くことはどういうことかを考察する作品に授与することを考えていましたが、様々な学科のみなさんが集い、働くことにつながるプロジェクトを実施した点を評価して、この特別賞を授与することとしました。



教育的視点から、受賞しなかった作品を含めて全作品に対して、大学生・大学院生、企業、行政など多様な視点から担当した全審査員のコメント、および実行委員会のコメント(上記のようなもの)を付けました。